

・学校名及び規模

北九州市立黒崎中学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3					10	18
生徒数	142	118	120					380	

・実践研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を育む授業づくり
---------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1, 2, 3学年 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語 (理由) 確かな学力の定着は、全教科で組織的に取り組むことが効果的であると考えため。
---

(2) 年次計画

平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力を育む授業づくり」</p> <p>仮説 「落ち着いた学習環境を整備し、生徒の実態に応じた教材や指導体制・指導方法、評価の在り方を工夫改善する授業をつくっていくなれば、生徒に確かな学力が身に付くだろう。」</p> <p>研究内容・方法 (1) CRT検査による各教科の生徒の実態把握 (2) 学習指導要領解説や北九州市立中学校教育課程編成資料を基とする、基礎的・基本的な内容の再検討 (3) 補充的な学習や発展的学習など個に応じた指導のための教材開発 (4) TTや少人数指導など個に応じた指導体制や指導方法の工夫改善 (5) 指導と評価の一体化を図るための評価規準や評価方法の研究</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力を育む授業づくり」 生徒の実態に応じた学習計画の立案を通して</p> <p>仮説 「確かな学習規律のもと、生徒の実態に応じた学習計画を立案し、授業を行っていくなれば、生徒に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。」</p> <p>研究内容・方法 (1) CRT検査による各教科の生徒の実態把握 (2) 学習実態調査による生徒、保護者の学習に対する意識の調査と分析 (3) 各教科における診断的評価の活用 (4) 学習指導要領解説や北九州市立中学校教育課程編成資料を基とする、基礎的・基本的な内容の再検討 (5) 補充的な学習や発展的学習など個に応じた指導のための教材開発 (6) TTや少人数指導など個に応じた指導体制や指導方法の工夫改善 (7) 指導と評価の一体化を図るための評価規準や評価方法の研究 個に応じた指導・支援を行うには、生徒・保護者の学習に対する意識や生徒のつまづきを丹念に探し出して手だてを打っていく必要があると考え、(2)、(3)を挿入した。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力を育む授業づくり」  (仮)生徒の実態に応じた学習計画の立案を通して</p> <p>仮説</p> <p>(仮)「確かな学習規律のもと、生徒の実態に応じた学習計画を立案し、授業を行っていきなれば、生徒に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。」</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) CRT検査による各教科の生徒の実態把握  (2) 学習実態調査による生徒、保護者の学習に対する意識の調査と分析  (3) 各教科における診断的評価の活用  (4) 学習指導要領解説や北九州市立中学校教育課程編成資料を基とする、基礎的・基本的な内容の再検討  (5) 補充的な学習や発展的学習など個に応じた指導のための教材開発  (6) TTや少人数指導など個に応じた指導体制や指導方法の工夫改善  (7) 指導と評価の一体化を図るための評価規準や評価方法の研究  (8) 学力の定着を図るための家庭学習等の工夫改善</p>
--------	---

(3) 研究体制

研究組織は昨年度と大きくは変わらないが、本年度は、副主題「生徒の実態に応じた学習計画の立案」に応じるため、研究委員を指導部、調査部、総務部に分け、それぞれに主任を置いて研究を行うことにした。

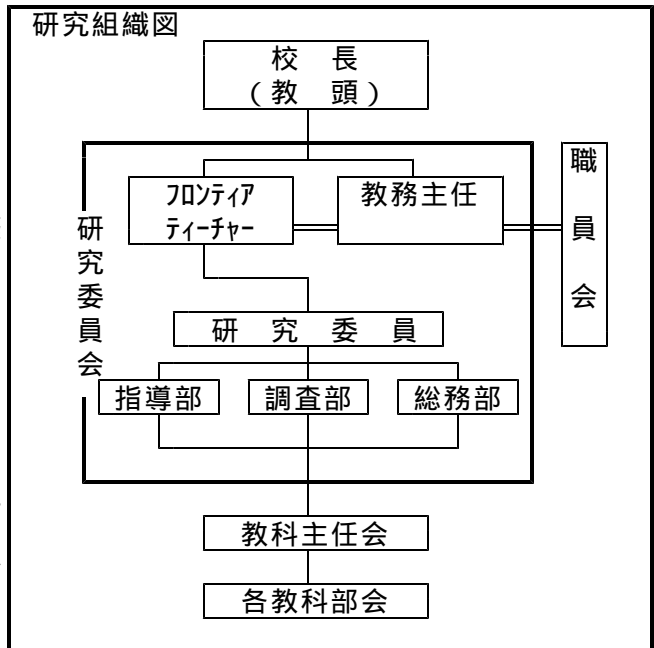
指導部は、指導案の形式や授業モデルの構築など主に研究の推進に当たる。

調査部は、学習実態調査やCRT検査などの資料の集計、分析などに当たる。

総務部は予算・決算、会場図、案内状、紀要、分掌組織の作成など学力向上のための組織運営に当たる。

フロンティアティーチャーは、それら各部の研究に参画し、教務主任と連携を取りながら学校運営にフロンティア事業を反映していく。

フロンティア研修会も月1回が定例化し、全職員による学力向上の取組が行えるようになってきた。



平成15年度の成果及び課題

第3回目のCRT検査の実施が行われていないので、まだ客観的なデータを提示することはできないが、1回目と2回目の変容などを提示し、かつ本年度の実践研究のなかで見いだされた成果と課題を述べることで平成15年度の間報告としたい。

1. 研究の成果

第1回目と2回目のCRT検査の結果を比較し、変容を見ると、全国通過率に比べて、思考判断では+1.33、技能表現では+2.51、知識理解では+3.44、総合で+2.44と、本校の学力は向上しつつあることが分かる。これは昨年度から継続中の学習規律の確保と小テストなど知識・理解の取組が功を奏しているためと思われる。また、診断的評価を基に学習計画を立案することで生徒は学習への必要感を高め、学習意欲は向上しているように見える。特に、少人数指導など個に応じる手だてを重視した教科では学力の向上が著しかった。

## 2. 今後の課題

第1回目と2回目のCRT検査の結果の比較から、学習意欲に関しては-2.67で低下しているという結果が出た。また、学習実態調査の分析からは本校生徒は家庭学習の時間が全国平均よりも少なく、内容も主体性にやや欠けることが分かった。これらの結果を踏まえて本年度は、導入や教具の工夫や保護者への呼びかけなどを行ってきたが、成果は十分といえず、学力の定着を阻む要因となっている。来年度はこの2点を課題とし解決することを目指していきたい。

### . 学力把握のための学校の取り組みについて

定期的な学力調査（CRT検査）の実施（年1回）  
学習実態調査（7月、9月）

### . フロンティアスクールとしての成果の普及

- 平成15年11月18日（火）、黒崎中学校の教室、体育館において公開授業及び実践交流会を開催した。交流会は教育関係者を対象としたが、公開授業については地域や保護者も参加を呼びかけた。
- 平成15年11月19日島根県佐田町6名、12月12日日田市教頭会7名、平成16年1月27日日田市教育振興協議会24名、1月29日鹿児島県牧園町教頭会8名、2月5日熊本県教務主任会11名、2月19日大阪市立高津中学校1名、2月24日長崎県平戸中学校2名、同日熊本県阿蘇北中学校2名、2月27日長崎県諫早市立有善中学校2名が、視察訪問研修として本校に来校、本校の取組の説明と協議を行った。
- 北九州市教育論文に、本校の研究を団体論文として応募した。
- 北九州市教育センターに教育実践として研究紀要、実践事例を寄贈した。
- 平成16年3月31日までに本校のホームページを作成し、そのなかで、フロンティアスクールに関する取組のページを設けて、研究紀要、実践事例などを掲載する予定。

(<http://kita9.ed.jp/kurosaki-j/ne.jp>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】            15年度からの新規校            14年度からの新規校
- 【学級規模】                    3学級以下                    4～6学級  
                                     7～9学級                    10～12学級  
                                     13～15学級                 16学級以上
- 【指導体制】                    少人数指導                    T.Tによる指導  
                                     その他
- 【研究教科】                    国語                    社会                    数学                    理科  
                                     外国語                    音楽                    美術                    技術・家庭  
                                     保健体育                    その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】            有                    無